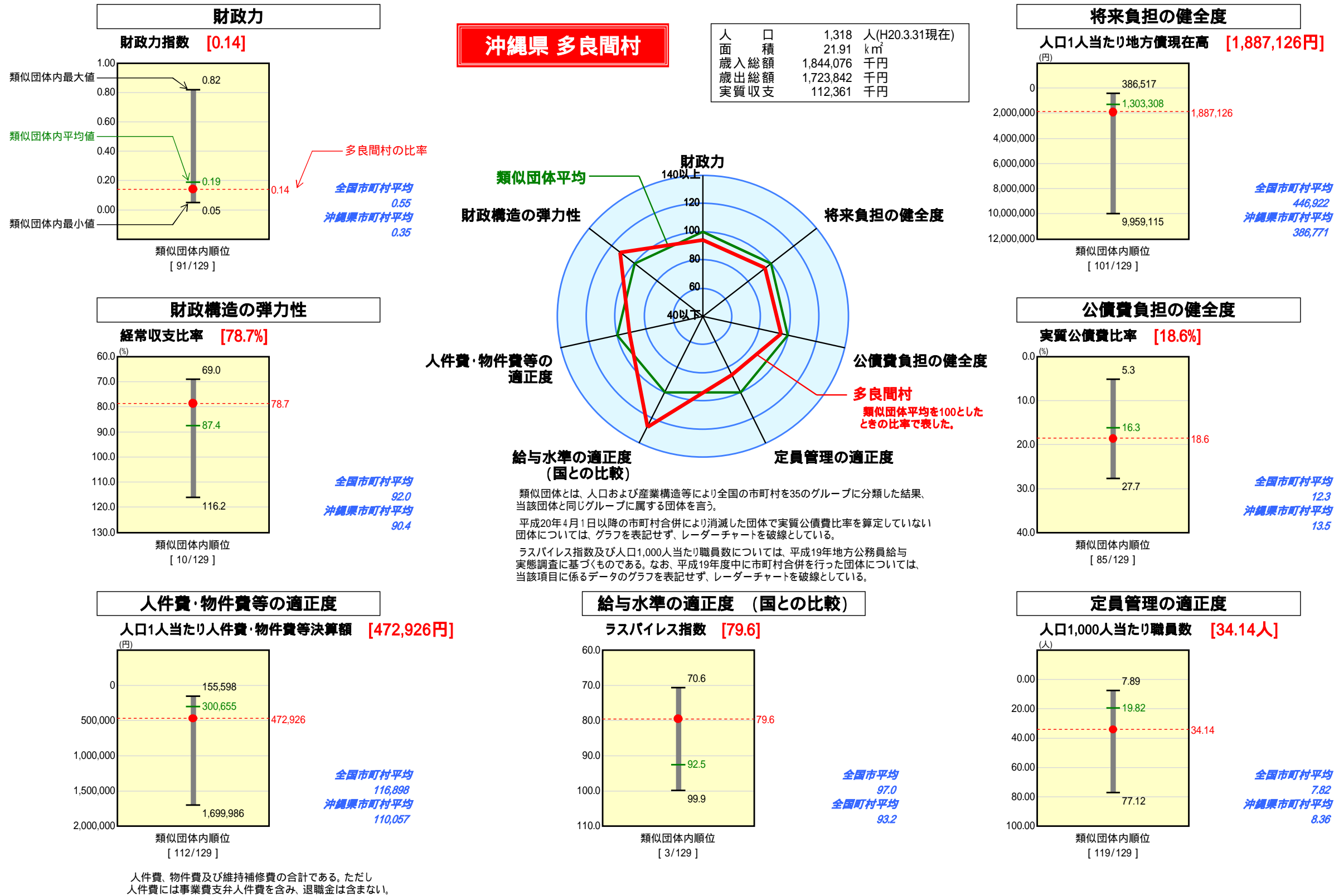


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)



分析欄

・財政力：村の財政基盤は弱く前年度同の0.14となっており、類似団体と比較すると低い水準となっている。今後は、人件費等の節減を図り歳出を抑え、税収の徴収率向上を行うことで歳入を確保し財政基盤の強化を図る。

・財政構造の弾力性：前年度に比べ78.7(8.9ポイント減)に下がっているが、今後も義務的経費の抑制に努める。

・人件費・物件費等の適正度：類似団体平均を上回っている要因は、一般廃棄物処理施設、夢パティオたたらま施設の運営を直営で行っているため、今後は民間運営が可能な部分については、指定管理者制度の導入によりコスト低減を図っていく。

・給与水準の適性度：類似団体平均を大きく下回っているため、給与の適正化に努め給与体系の見直しを行う。

・定員管理の適性度：類似団体平均を大きく上回っており、今後は事務分担の見直し等により適正な定員管理に努める。

・公債費負担の健全度：H11～H13に実施した一般廃棄物処理施設整備事業、H11～H15に実施した夢パティオたたらま施設整備事業の償還が開始されたことで、公債費比率は18.6%と高い水準になっているが、今後は公債費適正化計画に基づき村債の発行を抑制し、繰り上げ償還を行う等公債費の健全化に努める。

・将来負担の健全度：類似団体平均を上回っている要因は、H11～H13実施の一般廃棄物処理施設整備事業(総事業費13億円うち起債6.5億円)、H11～H15実施の夢パティオたたらま施設整備事業(総事業費5.6億円うち起債4.5億円)によるもので、今後は公債費適正化計画に基づき村債の発行を抑制する等、将来負担の健全に努める。